

新約聖書の中の祈り①⑥

熊本聖書フォーラム

2021年1月24日

出典：MBS147 “Prayer in New Testament History” Arnold G. Fruchtenbaum, TH.M., PH.D.

「新約聖書の中の祈り」のアウトライン

1. イエスの祈り（22の事例）
2. 福音書における他の祈り（4の事例）
3. 使徒の働きにおける祈り（27の事例）
4. 書簡における祈り（25の事例）

本日は、書簡における祈り（第1～第5）

1 番 ローマの教会のための祈り P.1

ロマ1：8～10

文脈

- ローマの教会は、パウロの宣教によるものではない
- 使2：10 ローマ在住のユダヤ人、エルサレムで教会誕生に居合わせた
- パウロは、彼らのためにいつも祈っていた

1 番 ローマの教会のための祈り P.1

ロマ1：8～10

祈りの内容

1. 神に感謝をささげる祈り 8節
2. 願い求める祈り： パウロがローマの教会を訪問できるように・・・その理由は、11～12節

1 番 ローマの教会のための祈り P.2

ロマ1：8～10

この祈りの事例から学ぶこと

- まだ訪ねたことのない教会や、会ったことのない信者のために祈ることが、あり得る

2 番 私のために祈ってください P.2

ロマ15：30～32

1. パウロの求め：「私のために」そして「私とともに」祈ってほしい
2. 文の構成：「お願いします」→「私たちの主イエス・キリストによって、また御霊の愛によって」→「私と共に力を尽くしてください」

2番 私のために祈ってください P.2

- 何に力を尽くすのか =
『私のために祈ることにおいて』
- 誰に祈るのか = 『神に向かって』
- 原文の意図：神に向かい、祈るときに、
「私たちの主イエス・キリストによって」
「また御霊の愛によって」

2番 私のために祈ってください P.2

3. ここから、祈りについてわかること
- 祈りの宛先は、父なる神である『神に向かって』
 - 祈りは、主イエス・キリストの名によって祈る
『私たちの主イエス・キリストによって』
 - 祈りは、聖霊の力によって祈る『御霊の愛によって』

2番 私のために祈ってください P.2

4. 「私とともに力を尽くして」・・・
誰かのために祈る = その人といっしょに労苦すること
5. 祈りの内容 3つ
 - ユダヤにいる不信仰な人々から守られるように
 - 異邦人信者からの捧げものがエルサレムのユダヤ人信者たちに喜んで受け入れられるように
 - 神のみこころにより、パウロがローマの教会を訪問できるように、ともに憩いを得ることができるよう

2番 私のために祈ってください P.3

「あなたがた と共に憩いを得る」

- 下線部は、一語 **スンアナパオウマイ**
- 自分ひとりで休むのではなく、
- 誰かを連れ立って、あるいは誰かのところに行つて、**その人と一緒に安息の時を持つ**という意味

2番 私のために祈ってください P.3

「あなたがた と共に憩いを得る」

- パウロは、1章12節で願っていた・・・ローマの教会に行って、ローマの信者たちと親しくいっしょに時間を過ごす中で、「互いの信仰によって、ともに励ましを受けたいのです」
- 信者同士の交わりは、ともに励ましを受け、ともにリフレッシュされるので、とても大切なこと

2番 私のために祈ってください P.3

「神のみこころにより」

- 原文は「神のみこころを通して」
=神のみこころがなされますように
- 祈るときの心構え：神のみこころがなされるように
- 祈りの答え：神のみこころがなされるような仕方において、事が動く

3番 祈りによる協力

P.3

Ⅱ コリ1：11 あなたがたも祈りにおいて協力してくれれば、神は私たちを救い出してください

1. 背景

- パウロの第2次伝道旅行により形成された教会
- パウロは、第3次伝道旅行の中で、手紙を送った
- 第一の手紙はエペソ滞在中、第二の手紙はマケドニア滞在中
- Ⅱ コリ1：8「アジアで起こった私たちの苦難」とは、エペソを含む地域における伝道での苦難を指す

3番 祈りによる協力

P.3～4

2. 祈りの位置付け

- パウロの伝道活動は、神の計画
- 苦難や危険から救い出すことも、神のみわざ
- しかし、神がパウロを救い出すために、祈りが必要
- まずパウロたちが祈ること、9節「神に頼る」
- 次に11節、信者たちによる「祈りの協力」

3番 祈りによる協力

P.4

3. 祈りの内容

- 11節の「祈り」は、願い求めの意味
- ここでの祈りの内容は、苦難からの救出、いろいろな必要が満たされるように、との願い求め

4. ここから教えられること

- 福音宣教のために、信者たちが祈りで協力することが不可欠
- 福音宣教のための必要が満たされることも、祈りを通して

11節「そのようにして、多くの人たちの助けを通して、私たちに与えられた恵み」

4番 慕うようになる

P.4

Ⅱ コリ9：14 彼らは、あなたがたのために祈るとき・・・あなたがたを慕うようになります。

1. 祈りの内容：願い求め、ここではエルサレムのユダヤ人信者たちが、コリントの異邦人信者たちのために願い求める祈りをしていた
2. 祈りの結果：エルサレムのユダヤ人信者たちは、会ったことのないコリントの異邦人信者たちのために祈ることを続けていると、「慕うようになる」＝コリントの異邦人信者たちに会いたくなる
3. この箇所から学ぶこと：誰かのために祈るなら、私たちの心は、その人に会いたいと思うようになる。祈りは信者間の交わりを生み出す。

5番 祈りのとおりにならない P.4

Ⅱ コリ12：7～8 私は三度、主に願いました。

1. 祈りの内容：癒しを求める祈り

- 願いました＝パラカレオウ
- 原意：近くまで行く、呼び寄せる
- 声をあげて懸命に要求する
- パウロは癒されるよう三度も神に懇願した

5番 祈りのとおりにならない P.5

2. 祈りの答え：癒されず、持病を持ったまま

- パウロの信仰が足らなかったから **×**
- 必ず癒されると宣言しなかったから **×**
- 神の答え「わたしの恵みはあなたに十分である。
わたしの力は弱さのうちに現れるからである。」

5番 祈りのとおりにならない P.5

3. 信者の祈りに対して、神は時折、「そうしない」と言われる。

- その人の信仰が足りないから **×**
- その人が「必ず祈ったとおりになる」と宣言しなかったから **×**
- そうしないことが、神のみこころ ○

5番 祈りのとおりにならない P.5

4. パウロの場合、持病を持ち続けることを神はよしとされた。パウロを高慢にさせず、謙遜に保つため

- パウロは使徒であるだけでなく、奥義の管理者
- 奥義とは、新約聖書で初めて啓示されてこと
- 新約聖書の書簡 2 1 のうち、パウロの書簡 1 3

5番 祈りのおりにならない P.5

5. 神の力が現れる原則＝信者の弱さのうちに完全に現れる・・・パウロは癒されなかったがこの原則を受け取った
- **Ⅱ コリ12：9** キリストの力におおわれるためには、自分の弱さを恥じたり、隠してはならない
 - **Ⅱ コリ12：10** キリストの力におおわれる体験をした信者は、自分の弱さが明らかになったとき、侮辱されたとき、苦悩に陥ったとき、迫害を受けたとき、いろいろな困難にあったとき、それを喜ぶことができる。「私が弱いときこそ、私は強い、キリストのゆえに」と知っているからである

2月の集会予定

2月13日（土） イエスのことば 第11回

「今日、この聖書のことばが実現しました」ルカ4：21

2月14日（日） 新約聖書の中の祈り 第17回

2月20日（土） 新約聖書の中の奥義 第8回

「内住のメシアの奥義：メシアの現在の働き」

2月28日（日） 新約聖書の中の祈り 第18回